

問い合わせ先：164. に同じ
 現地カウンターパート：164. に同じ

172. はまぐり雪および内蔵助雪溪での調査
目 的：北アルプスのはまぐり雪，内蔵助雪溪の雪溪規模変動のモニタリング。
調査地域：166. に同じ
メンバー：未定
期 間：2008 年 6 月上旬，10 月上旬
調査内容：はまぐり雪と内蔵助雪溪における融解

期初期と末期の測量。
 問い合わせ先：166. に同じ

173. 大雪山系雪壁雪溪調査
目 的：融雪末期の規模を測量する。
調査地域：167. に同じ
メンバー：亀田貴雄，高橋修平ほか（北見工大）
期 間：2008 年 9 月中旬
調査内容：167. に同じ
問い合わせ先：167. に同じ
 （2008 年 3 月 24 日受付）

雪氷化学分科会 2008 年「雪合宿」報告

雪氷化学分科会では，年間行事のひとつとして「雪合宿」を開催している。「雪合宿」は分科会総会の折に，「物理的な積雪調査法は確立されているが，化学分析のための調査方法は，それぞれがバラバラにやっているのではないか」という意見が出され，「是非，実際の雪を前にして検討会をやろう」という声があがった経緯から行われるようになった。これまでに，第一回：長野県乗鞍高原（信州大学乗鞍寮），第二回：北海道大学雨竜研究林（北大低温研），第三回：富山県立山室堂（富山大学観測地），第四回：山形県蔵王山頂付近（山形大学蔵王山寮），第五回：新潟県中里村（清津峡温泉），第六回：青森県八甲田山（酸ヶ湯温泉）と実施されてきた。今回は，北海道の北海道教育大学大雪山自然教育研究施設と旭岳を合宿地を選び，「硬化雪に挑む」というテーマで企画されたのだが…

今回の合宿では，北海道教育大学の尾関俊浩さんに変なお世話になりました。また，旭川西高校の平松和彦さんには，旭川駅前のバス乗り場まで見送りに来て頂き差し入れを頂きました。ありがとうございました。

日 時：2008 年 3 月 13 日～15 日
場 所：北海道東川町 旭岳ロープウェー姿見駅周辺，北海道教育大学大雪山自然教育研究施設
参加者数：14 人

1. 集合（1 日目）

初日は，札幌から乗用車または旭川駅からバスで旭岳ロープウェー駅に向かった。最高に天気がよく旭岳を眺めながらの移動になった。その後夕方に，北海道教育大学大雪山自然教育研究施設に全員が集合し，西村大輔料理長（北海道大学環境科学院）の指揮の下で調理されたカレーライスを夕食で頂きながら雪合宿は始まった。

2. 講演会（1 日目夜の部）

最初に，恒例の自己紹介を行った。今回，初めて参加した方が 5 名，第一回からの皆勤は 1 名だった。その後，信州大学の鈴木啓助さんから山岳積雪についての講義をして頂いた。今回，初めて積雪観測を体験する参加者もいたため，雪に関する「いろはのい」から丁寧に説明頂き，質疑や討論が熱心になされた。あまりに熱の入った講義になったためか，用意して頂いた資料の半分も紹介されなかったそうで，来年の「雪合宿」での続きが期待される。

3. 積雪断面観測実習（2 日目）

昨日の晴天からうってかわり小雨が降る朝を迎えた。各自 7 時頃から朝食を摂り，9 時始発のロープウェーに乗って姿見駅へ移動した。

標高 1600 m の姿見駅周辺は風が強く，みぞれ混じりの雪が横殴りに降り，視程も 100 m 程度と



写真 1 講演会の様子
(撮影：佐藤和秀 (長岡高専))

厳しい状況だった。不案内な場所で移動することは危険と判断し、硬化雪が観測できる場所へ移動するのは取りやめ、姿見駅近くで雪穴掘りを始めた。小一時間で地面までの断面が現れ、積雪深は 1.63 m だった。成田英器さん (NPO 法人雪氷ネットワーク) に、積雪断面の作り方、層位観測法を講義していただいた。雪質は最下部にザラメ雪がみられた以外はしまり雪で、表面から 0.40–0.44 m に黄砂が混じった層が観察された。その後、雪温、密度、試料採取を行ったが、天気はさらに荒れ、各自ロープウェーの駅で暖を取り休憩を取りながらの作業となった。そんな悪天の中、昼過ぎまで頑張ったのだが、天候が回復する兆しは見られず、体が冷え切ってふるえながら作業する参加者もいたので、観測実習を早めに切り上げ、宿舎に戻ってかけ流しの露天風呂につかって体温回復に努めた。

4. スライド & トークショー (2 日目夜の部)

昨晚同様、料理長の下に調理された鍋料理に舌鼓を打った後、観測のスライド & トークショーをおこなった。最初に、石井吉之さん (北海道大学低温科学研究所) にアラスカの森林火災と北海道の硬化雪について、次に成田英器さんに硬化雪形成のメカニズムについて、最後に的場からスイスで行われた南極大学の氷河実習についてそれぞれ発表がされた。



写真 2 悪天下の積雪断面観測の様子
(撮影：的場澄人 (北大低温研))

5. 総評

今回の「雪合宿」は、これまでで最悪の天候に見舞われてしまった。積雪断面観測と試料採取に十分な時間を取れなかったことは、本当に残念だった。そのような寒い中で一度も休憩を取らず観測を続けたのは、35 歳以上の年配チームだった。これは、最近の若者は根性がないとか年寄り寒さを感じない、ということではなく、年齢とともに装備にお金をかけられるようになったからだと思う。そんな意味も含めて、積雪断面の講習としては不十分だったが、野外観測の実習としては十分過ぎる経験になったのではないのでしょうか。

来年は、晴天の志賀高原で開催が予定されています。ますます充実した「雪合宿」に発展できるよう、学会会員の皆様からのご意見、ご提案など頂けたらと思います。また、雪氷化学分科会員だけでなく広く学会員の方の参加もお待ちしております。

これまでの「雪合宿」の様子や写真は雪氷化学分科会のホームページに掲載されています。

(<http://www.seppyo.org/~chemistry>)

(北海道大学低温科学研究所 的場澄人)

(2008 年 4 月 4 日受付)